

# 技術フォーラム ニュース

## 講演会 : インフラマネジメント、 これからの公務員技術者に期待すること ～地方自治体での経験と、工事監査・技術研修講師を通じて～

日時：令和 5 年 2 月 25 日（土）10:00～11:50  
場所：港区立新橋生涯学習センター・オンライン

講師：塚原 忠一（つかはら ただかず）会員  
NPO 地域と行政を支える技術フォーラム理事  
技術士（上下水道）：技術士（CPD 認定）  
1 級土木施工管理技士、監理技術者、測量士  
上級土木技術者（交通・マネジメント）  
下水道技術検定（第 1 種・第 3 種）  
環境経営士、環境マネジメントシステム審査員補

### はじめに

私は長野高専を卒業し、建設コンサルタント会社で 2 年弱の設計業務を経験し、昭和 60 年 4 月、上田市役所に採用されました。公務員技術者として 26 年 4 か月を勤務した後、今から約 11 年半前に退職しました。



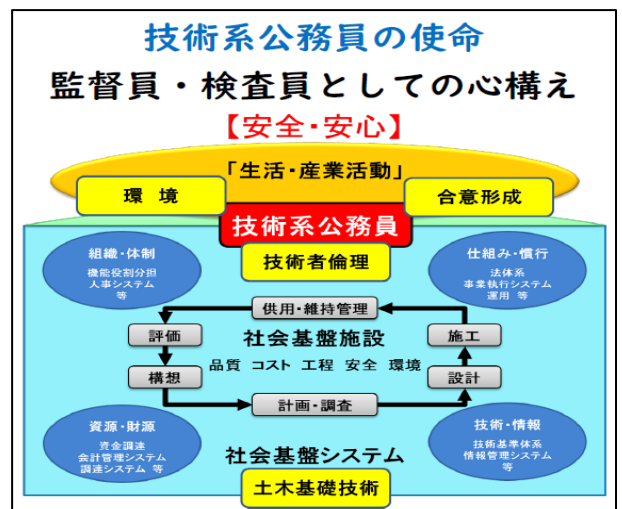
平成 25 年 9 月に縁があり「NPO 地域と行政を支える技術フォーラム（以下「技術フォーラム」という。）」の会員になりました。本日は、私の公務員技術者としての経験と、技術フォーラムでの活動（工事監査に伴う技術調査（以下「工事監査」という。）及び技術研修（監督員、検査員、技術マネジメント）講師など）から、課題の山積するインフラマネジメントについて、技術研修で話してきた内容を皆さんと共有し、「これからの公務員技術者に期待すること」について話をさせていただきます。

### 地方自治体での経験

上田市在職中の約半分は、農政部土地改良課での経験です。ほ場整備、農地開発、かんがい排水及び農道

事業の他、土地開発公社の工業団地開発事業も担当しました。それまでの利便性の良い農地整備、用排水路整備だけでなく、蛭などの水生生物にも良好な環境を与えることが求められ始めた頃です。

33 才で初の人事異動を経験しました。建設部土木課でその後 7 年間、道路新設改良事業を中心に、構想、計画調査、設計、施工及び維持管理にと、技術的には全てのプロセスを経験するとともに、用地交渉・契約、税務署事前協議などの業務も経験しました。設計などの委託費が少ない時代で、各種構造物はもとより、設計、積算及び施工監理など、ほとんど直営で行っていた頃です。理解のある上司に恵まれ、当時としての新技術などを積極的に採用する挑戦をさせてもらいました。また、関係者とのコミュニケーションや合意形成の大切さなどにも気づかされた時期となりました。



係長職では、農政部土地改良課で 2 年、上下水道局下水道課で 4 年、経営管理課付（日本下水道事業団派遣）で 2 年、丸子地域自治センター建設課で 4 か月経験

しました。最初の3年間は平成の大合併時期にあたり、農政部及び上下水道局の技術分野の合併調整事務を担当しました。現在、公共事業でも「広域化・共同化」などの取組が進められていますが、丁度私と同世代の技術者は、これらの経験が今後の「武器(?)」になるのではと考えています。

下水道・農業集落排水事業は、当時としては少なかった「公営企業会計」を適用していました。インフラ施設を減価償却資産とする会計制度は、公共事業のような資産利用(活用)事業にピッタリな仕組み(会計制度)と感じました。理解のある上司達、優秀な同僚・部下に恵まれて、様々なチャレンジができたと思っています。国土交通大臣賞を受賞した、『「ホテルマップ」による「下水道の見える化」をめざして!!』& 『温室効果ガス削減目標を掲げた老朽化施設の再構築』、下水道研究発表会での研究発表など、本当に貴重な経験となりました。さらに「地方共同法人日本下水道事業団」に派遣された2年間は、全国に公務員技術者の知人ができたこと、私の「宝」のひとつになっています。もちろん失敗も沢山ありましたが、それも今ではいい思い出(経験)です。

### インフラマネジメント、現状と課題

インフラマネジメント(社会資本)の現状と課題は、次のとおりです。

- ・少子化・高齢化による人口減少
- ・地震・風水害等への対応
- ・老朽化する社会資本
- ・実は、カネ(財務)が最も大変な状況

50年、100年と使い続けなければならないインフラを、安全・安心な施設として維持管理していかなければなりません。

公務員技術者は、民間技術者と連携し、支援してもらいながら、国民・市民から託された社会資本を守り続けなければならない義務と責任があります。まずは、これまでの事象・事象事例などを学び、次世代へインフラを引き継ぐための学びが重要だと考えています。

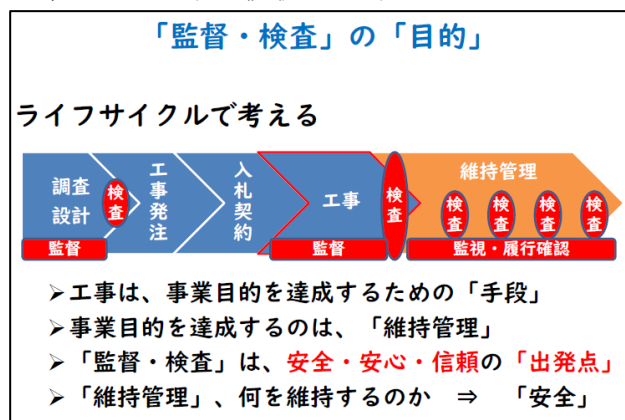
### 工事監査・技術研修講師を通じて想うこと

技術フォーラムでの活動(工事監査[26件]・技術研修講師等[15件])は、これら公務員時代の経験を活かすことができました。

平成11年度には私自身が工事監査(公益社団法人日本技術士会)を受けた経験があります。当時、調査員として派遣された技術士に、「塚原君、ぜひ技術士に挑戦しなさい。」と言われ、その後、「測量士」、「1級土木施工管理技士」、「下水道技術検定(第1種、第3種)」に合格しました。

公務員技術者も「資格」を取得し、民間技術者と切磋琢磨することが、地域のインフラを守る基盤だと考えました。全くの独学で挑戦し続けた技術士第二次

試験は、平成23年3月に合格できました。確か8回目の挑戦だったと記憶しています。ある先輩から、挑戦し続けることが大切だと言われました。今になってみれば、あきらめずに挑戦して良かったと思っています。



公務員技術者は、基本的に「監督員」及び「検査員」としての役割を再認識することが重要です。

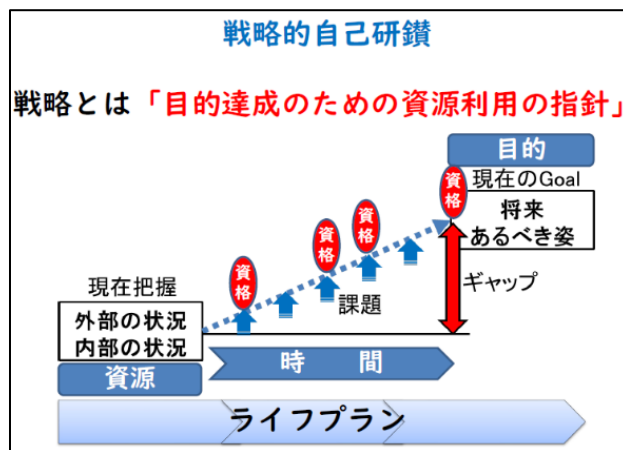
「監督・検査」が、地域の『安全・安心そして信頼の「出発点」』であると認識し、自らも成長することが求められています。まずは「公共工事の品質確保」について、学習することが良いでしょう。平成17年に公布され、その後改正(平成26年、令和元年)された「公共工事の品質確保の促進に関する法律」などは、とても良い題材だと思っています。

### これからの公務員技術者に期待すること

公務員技術者としての使命を忘れずに、プロフェッショナルであるという自覚を持つことが重要です。

組織を活かすには、しっかりとしたコミュニケーションが必要であり、自らも成長しなければなりません。自らの成長を責任とみなし、公務員技術者として求められる技術者像を追い求めてください。それは地域のため、いえ、全て自分のためでもあるのです。

そのためには、自らの戦略的なインフラマネジメントが重要です。挑戦と改善、「不足」の削減、そして自らの品質保証(資格と実践、そして記録)と職務遂行能力を磨いて欲しい、今後もそんな支援ができればと考えています。



## 地域と行政を支える技術フォーラム そのユニークな特徴

### ◎ 特定非営利活動法人(NPO 法人)です。

当フォーラムは、建設・環境・情報等をベースとした専門家が、地域住民のパートナーとして助言・提言を行うとともに、地方行政事業の必要性・効率性・有効性・公平性・優先性について、地方行政を事前・事後あるいは途中においてサポートすることにより不特定多数のものの利益に寄与することを目的として、平成16年に内閣府認証のNPO 法人として設立されました。

前記の目的を達成するため、当フォーラムでは次の活動や事業を行っております。

- (1) まちづくりの推進を図る活動
- (2) 環境の保全を図る活動
- (3) 情報化社会の発展を図る活動
- (4) 経済活動の活性化を図る活動
- (5) 建設・環境・情報等に関する相談・助言・提言事業
  - ① 講演会・講習会・セミナーの開催
  - ② ホームページ、メールによる情報提供
  - ③ 交流会の開催
- (6) 地方行政事業に関するサポート事業
- (7) その他、目的を達成するために必要な事業

### ◎ 多様多彩な人材の宝庫です。

当フォーラムは、工学博士、技術士(建設、上下水道、環境、農業、情報工学、電気電子、機械、化学、経営工学他)、一級建築士など、多様多彩な有資格者で構成されております。

### ◎ 十数年に及ぶ膨大な実績があります。

当フォーラムは、平成16年の設立以来、都内の市役所・区役所の他、北海道、青森、山形、福島、新潟、栃木、群馬、茨城、千葉、埼玉、神奈川及び静岡の各道県内市役所などにおいて、建築・土木・上下水道・環境・通信・情報・電気・機械各分野の工事監査等に伴う技術調査や、技術職員研修、管理職研修、監査委員研修の実施などに精力的に取り組んで参りました。このため、他に類を見ない膨大な実績を有しております。

この他、関係書籍の出版や、講演会を年に4回継続的に開催するなど、有用な情報の発信にも積極的に努めて参りました。



NPO 法人地域と行政を支える技術フォーラム 編著

### ◎ 品質の確保には組織的かつ継続的に取り組んでいます。

当フォーラムには、工学博士、技術士(建設、上下水道、環境、農業、情報工学、電気電子、機械、化学、経営工学他)、一級建築士など、第一級の人材が集っております。

しかし、建築・土木・上下水道・環境・通信・情報・機械各分野の工事監査等に伴う技術調査では、これを的確に行って高品質な結果報告書を作成するには、実務経験が絶対に欠かせません。

そこで当フォーラムでは、技術調査を初めて担おうとする者には、経験豊富な者による実際の技術調査への陪席を二回以上経験することを義務付けております。また、作成した結果報告書は、経験豊富な二名の校正担当者による校正を受けることを義務付けております。

このような品質の確保に向けた取り組みは、当フォーラムの設立当初から今日に至るまで、組織的かつ継続的に行って参りました。このことは、他に類を見ないものです。

## ◎ 情報漏洩の防止は組織を挙げて徹底しています。

当フォーラムでは、工事監査に伴う技術調査等で知り得た情報が漏洩しないよう、関係書類の細断による破棄や、第三者に傍受される虞のある会話やメールにおける具体的な言及の禁止を徹底しております。

## ◎ 研修講師は当フォーラムにお任せ下さい。

当フォーラムは、官公庁等における技術系管理職経験者やプロジェクトマネジメント経験者、工事等発注業務経験者を多数擁しております。何よりも、当フォーラムの理事長は、工学博士、技術士(建設部門)及び一級建築士の資格を有する前港区長です。そこで、当フォーラムでは、毎月開催する例会や四半期ごとに開催する講演会において、自治体が直面する課題の把握やその解決策の研究に努めております。このような積み重ねの中から、「耐震技術と耐震対策」、「監査の役割と使命」、「都市計画」、「省エネと創エネ」、「技術プロジェクトのマネジメント」、「談合を許さない発注者のエンジニアリング」、「性能仕様書による発注業務の劇的な改善」、「情報セキュリティ」、「工事の監督と検査」、「建物や設備の維持管理」など、技術職員研修、管理職研修、監査委員研修に適した多彩な研修テーマをご用意しております。また、当フォーラムは、数多の技術分野の有資格者で構成されていますので、全くオリジナルな研修テーマについても、ご要望に応じて創り上げることができます。

## ◎ 技術コンサルティングも承ります。

当フォーラムは、技術コンサルティングも承っております。上記の研修講師が有する高度かつ専門的な知見を、自治体の技術プロジェクト運営支援や発注業務支援などに直接活用して頂くことができます。特定の事業に係るスポット契約や期間指定の契約など、多様なご要望にお応えできますので、まずは御気軽にご相談ください。

### 編集後記

当フォーラムでは、四半期ごとに開催している講演会の内容を広く皆様にお知らせすることを目的に、年に4回、「ニュースレター」を発行しております。

今回は塚原会員により、公務員技術者を経験し、現在技術フォーラムの理事で塚原技術士事務所を経営している経験から、インフラマネジメントに関し、公務員技術者に期待することという内容で講演をお願いしました。塚原会員はこれまで技術フォーラムの理事として様々な自治体で技術職員向け研修講師や工事監査の支援業務をしてきました。市民生活をサポートするためのインフラ整備は行政の重要な使命です。とりわけ公務員技術者の果たすべき使命は大きく、だからこそ、専門資格を取得して業務に携わる必要があるという主張です。

ニュースレターのバックナンバーは、URL(<http://www.efasca.jp/forum.htm>)でご覧頂けます。

これからの講演内容についてのご要望がございましたら、ぜひ、下記の当フォーラム事務局までお寄せ頂きますよう、お願い申し上げます。

特定非営利活動法人 地域と行政を支える技術フォーラム

電話 03-3403-2325

メール [info.efasca@efasca.jp](mailto:info.efasca@efasca.jp)

ホームページ <http://www.efasca.jp/>

〒106-0032 東京都港区六本木 3-14-9 妹尾ビル4階

理事長 原田 敬美